

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語】

1. 対象 1年生

これまでに、「空中ブランコ乗りのキキ」で登場人物の相互関係を、「字のない葉書」で登場人物の心情を、描写を基に捉える学習をしている。中学校では、今回初めて古文に触れる。小学6年生では古文「枕草子」を学習しており、音読を通して古文の言葉の響きやリズムに親しむ活動をしている。

2. 単元名『竹取物語』に描かれた登場人物の思いをとらえよう(全8時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	音読に必要な文語の決まりを知り、古文を音読し、古文特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。((3)ア)
思考力, 判断力, 表現力等	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。((1)オ)
学びに向かう力, 人間性等	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

4. 授業展開【 本時 **単元** 】

解決したい課題や問い

- ・現代の私たちが、「竹取物語」をすらすら音読するためには、どうすればよいだろう。
- ・「竹取物語」と「かぐや姫」を比較して読み、古文中の表現を根拠に「竹取物語」の主人公は誰で、どんな思いを抱いていたのかを捉えよう。

考えるための材料

古文「竹取物語」 ・本文 ・現代語訳 ・解説文、資料	絵本「かぐや姫」	単元の振り返り用紙 ・毎時間の評価基準をルーブリックで記したもの
想定される活動	想定される活動	想定される活動
・歴史的仮名遣いの理解を深め、冒頭部分を中心に音読をする。 ・竹取物語の主人公が誰なのかを古文中の表現を根拠に考える。	・古文「竹取物語」と比較しながら読み、内容の違いや「竹取物語」の特徴を捉える。	・単元と毎時間の目標を具体的に捉え、学習の見通しをもつ。 ・振り返りを行い、次時に向けて自分の学びを確認する。

対話と思考(対話を通した協働的な問題解決のプロセス)

※設定する対話の方法

- ・1時間の授業の中で、5分程度の4人班で意見を共有する場を設定する。その際には、考え方の視点を広げる目的なのか(「竹取物語」と「かぐや姫」を比較し見つけた違いを紹介しようなど)、意見を深める目的なのか(根拠をもとに、「竹取物語」の主人公を明らかにしようなど)を明確にする。
- ・ペア活動を取り入れ、お互いの音読を聞き合う場を設定する。

※対話や思考のプロセス

- ①「竹取物語」の冒頭部分を音読し、歴史的仮名遣いに対する理解を深める。
- ②「竹取物語」の冒頭部分の現代語訳を読み、登場人物の設定や人間関係をとらえる。
- ③「竹取物語」冒頭以降の話と、絵本「かぐや姫」を比較して読む。
 - ・「かぐや姫」は小さいころに読んだことあるな。懐かしい!
 - ・でも、「竹取物語」と何かが違う。何が違うんだろう。

- ・「かぐや姫」は竹の中から勝手にかぐや姫が出てきている。「竹取物語」は翁が見つけているな。
- ・4人班で意見交換をしたら、「竹取物語」の最後には、翁の心情が書かれているという違いを見つけている仲間がいた。

④ 古文中の表現や、「かぐや姫」との違いを根拠に、「竹取物語」の主人公は誰なのかを捉える。

- ・「かぐや姫」は、かぐや姫が中心に物語が進んでいき、翁のことは触れられていない。一方で、「竹取物語」は、翁の行動が詳しく書かれているな。翁がどんな心情だったのかも読み取れる。だから、主人公は翁ではないか。
- ・特に、物語の最後には「血の涙を流して惑へど」とあり、かぐや姫との別れを悲しむ翁の心情が書かれているのが特徴的だ。親が子を思う気持ちが、ここまで詳しく書かれているから、翁なのではないか。
- ・「竹取物語」では、かぐや姫が5人の貴公子から求婚されたり、帝からも声を掛けられたりしている。さらに、そういった地上の人々との別れを惜しむ姿も描かれている。「かぐや姫」では、そのような詳しい心情や行動は書いていないから、それらが書かれている「竹取物語」ではかぐや姫が主人公だ。

⑤ 小集団活動や全体での意見交換、ルーブリックによる中間評価や他者評価によって、自分の考えを再構築し、確かなものにする。

- ・「かぐや姫」が主人公だと思っていたが、〇〇さんの意見を聞いたら、翁かもしれないとも考える由になった。
- ・〇〇さんの意見は、古文中の翁のセリフを根拠にしてあって説得力があったな。自分も根拠をもっと挙げてみよう。

⑥ 古文を読んで学んだことをまとめる。

- ・初めて古文を読んだら、やっぱり難しかった。
- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す方法がわかった。
- ・やっぱり主人公は翁だと思う。セリフや行動描写をもとに心情を考えることができた。
- ・ずっと昔の話だけど、現代の私たちと変わらない人の思いも作品に書かれていたな。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

- ・最初、古文は読みにくいと感じていたが、現代仮名遣いに直す方法を知って、慣れてきたらすらすら音読できるようになった。独特のリズムがおもしろい。
- ・「竹取物語」は、そのタイトルからも分かるように、竹取の翁が中心人物になっているお話だと思う。そのため、物語の最後には「血の涙を流して惑へど」とあり、かぐや姫との別れを悲しむ翁の心情が描かれている。
- ・「かぐや姫」では、月の使者の不思議な力によっていきなり月に連れ戻されるような話の展開になっている。一方で「竹取物語」では、かぐや姫が別れを前に手紙を書くなどしており、地上の人々との別れを悲しむ姿が描かれている。大切な人を思う気持ちは、現代と変わらないな。
- ・ずっと昔に書かれた古文は、現代人の私たちでは音読の仕方でも内容も分かるはずないと思っていた。でも、解説の文を参考にしたり、仲間の意見を聞いたりする中で、お話の内容を理解することができた。そして、現代の私たちでも共感したり納得したりできる部分もあるんだと思った。他の古文も読んでみたい。